

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 白鳩 未来フィールド計画新築工事	階数	地上5F
建設地	京都市伏見区竹田向代町22地	構造	S造
用途地域	工業地域, 準防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所, 学校, 工場,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2019年4月 0.0	評価の実施日	2019年4月17日
敷地面積	5,099.45 m <sup>2</sup>	作成者	藤原 康行
建築面積	3,241.43 m <sup>2</sup>	確認日	2019年4月20日
延床面積	15,397.47 m <sup>2</sup>	確認者	藤原 康行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)								
<p><b>BEE = 1.5</b> ★★★★★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ ★☆☆☆☆ ★☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p><b>標準計算</b></p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>72%</td> </tr> </table> <p>0 46 92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	①参照値	100%	②建築物の取組み	76%	③上記+②以外の	72%	④上記+	72%	<p><b>Q2 サービス性能</b></p>
①参照値	100%									
②建築物の取組み	76%									
③上記+②以外の	72%									
④上記+	72%									

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質** **Q のスコア = 2.8**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>Q1のスコア = 2.7</p>	<p>Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3のスコア = 2.4</p>

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.8**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>LR1のスコア = 4.3</p>	<p>LR2のスコア = 3.5</p>	<p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>内装材において、F☆☆☆☆材料を積極的に採用している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>メンテナンスの材料の採用、床材巻上げなどといった計画をしている。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>リサイクル材料を内装材(塩ビシート)に採用。化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない内装の接着剤を採用。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される